

日本言語学会第 171 回大会 プログラム

会長
大会運営委員長
大会実行委員長

定延 利之
小町 将之
栗林 裕

期日：2025 年 11 月 22 日（土）・23 日（日）

会場：岡山大学津島キャンパス（岡山県岡山市）

参加費：会員（一般）2,000 円、会員（学生）1,000 円

非会員（一般）3,000 円、非会員（学生）2,000 円

事前登録 URL：<https://lsj171.peatix.com> （※Peatix のアカウントが必要。）

※ 事前に発表資料ページをお知らせするため、11 月 19 日（水）までの登録をお願いいたします。

※ 公開シンポジウムのみ参加される場合は、登録不要です。

— 第 1 日（11 月 22 日） —

10:30-12:00	評議員会	一般教育棟 D 棟 1 階 D25
12:00-	受付	D 棟 1 階西入口
13:00-15:55	口頭発表（詳細は 2 頁にあります。）	D・E 棟 1, 2 階
16:00-17:15	ポスター発表（詳細は 4 頁にあります。）	D 棟 2, 3 階
17:15-18:00	参加者交流会（会費無料。奮ってご参加ください。）	D 棟 3 階 D31

— 第 2 日（11 月 23 日） —

10:00-12:00	ワークショップ（詳細は 6 頁にあります。）	D・E 棟 1, 2 階
12:40-13:00	会長挨拶・学会賞授賞式	
13:00-16:00	<p>公開シンポジウム「アジアの諸言語の「ナル」と「ナル的」表現」</p> <p>＜企画・司会＞栗林 裕（岡山大学教授）</p> <p>＜基調講演＞</p> <p>池上 嘉彦（東京大学名誉教授）</p> <p>「copula」としての「ナル」とその周辺」</p> <p>＜登壇者＞</p> <p>栗林 裕（岡山大学教授） 「チュルク諸語」</p> <p>角道 正佳（大阪大学名誉教授） 「モンゴル諸語」</p> <p>宮岸 哲也（安田女子大学教授） 「シンハラ語・ゾゾ語」</p> <p>岡 智之（東京学芸大学教授） 「朝鮮語・アイヌ語」</p> <p>守屋 三千代（創価大学名誉教授） 「日本語：通言語的研究から見た日本語の「ナル」」</p> <p>※ 公開シンポジウムのみ参加の場合は参加登録不要。発表資料は大会ホームページに掲載予定。シンポジウムの様子は後日に学会公式 YouTube チャンネルにて一般公開されます。</p>	共育共創 コモンズ

■口頭発表（11月22日(土) 13:00-15:55）於・一般教育棟D・E棟

	A会場 D棟1階 D13 司会：[A-1~5] 北田 伸一	B会場 D棟1階 D12 司会：[B-1~5] 吉田 健二
13:00-13:30	[A-1] 杉崎 鉄司, 岡崎 亜美, 藤原 有沙 日本語のスルーシングの統語構造：母語獲得の視点から	[B-1] 久保 圭 現代日本語の同語反復構文「XもX」にみられる程度性と典型性
13:35-14:05	[A-2] 加藤 慎之祐, 藤井 友比呂, 小野 創 日本語空目的語構文における無音付加詞読みについて：予備的実験結果	[B-2] 船越 さやか 焦点化演算子の機能を持つ「だけ」と持たない「だけ」
14:10-14:40	[A-3] 嶋村 貢志 日本語における対格付与に関して	[B-3] 西牧 和也 右側主要部の規則から見た「お-」派生語：再登録アプローチに基づく転換分析
14:40-14:50	(休憩)	(休憩)
14:50-15:20	[A-4] 森田 千草 日本語の二項形容詞の統語構造に関する考察	[B-4] 山口 洋輝 「好きになりやすい」を述語とする文の格付与について
15:25-15:55	[A-5] 遠藤 歩華 場所目的語構文における未完了事態の意味解釈と遊離数量詞への応用	[B-5] 野島 本泰, 横林 美祝 ズヌン語の一人称単数代名詞 zaku は「斜格」なのか—3方言対照からみるその機能と制限—

	C会場 E棟1階 E11 司会：[C-1~3] 淺尾 仁彦, [C-4~5] 久保薫 愛	D会場 D棟2階 D23 司会：[D-1~5] 李 林静
13:00-13:30	[C-1] 渡部 直也 漢語数詞+助数詞における促音化のゆれとハ行子音の交替	[D-1] Abdul-Razak SULEMANA, Ken HIRAIWA Syntax of Modification in Bùli: Adjective Incorporation and Light Noun
13:35-14:05	[C-2] 那須川 訓也, 木山 幸子 日本語における喉頭音源対立の音韻表示と東日本地域内の変異	[D-2] Dagnew Mache ASGEDE, So MIYAGAWA Case Marking in Koygu, a Surmic Language in Southwest Ethiopia
14:10-14:40	[C-3] 濱岡 佑帆 自発発話における尻上がりリイントネーションの生成	[D-3] Ting-Chi WEI The syntax of adverbial clauses in Isbukun Bunun
14:40-14:50	(休憩)	(休憩)
14:50-15:20	[C-4] 篠原 日菜子 日本語大阪方言における補文標識「の」「ん」「のん」がかかるモダリティ表現について—共通語との対照の観点から—	[D-4] 伊藤 港 ドイツ語の不在構文(Absentiv)の背景的機能 am-Progressivとの対照分析
15:25-15:55	[C-5] 吉居 知真 日本語小説の会話文における丁寧語の役割語的使用の実態—語用論の観点から—	[D-5] Todor Ivanov VASILEV Relative Pronouns and Present Participles in Bulgarian Romani: A Case of Contact-Induced Change

	<p>E 会場 D 棟 2 階 D25 司会 : [E-1~5] 甲斐 ますみ</p>	<p>F 会場 E 棟 2 階 E21 司会 : [F-1~3] 久保園 愛, [F-4~5] 小野 智香子</p>
13:00–13:30	<p>[E-1] Jo-Wang LIN Unifying Mandarin <i>De</i>: Polymorphic Linker for Nominal and Discourse Roles</p>	<p>[F-1] 小木曾 智信, 王 竣磊, 尹 熙洙, 岡田 純子 短単位版関西弁コーパスと関西方言 UniDic の構築—関西方言書き起こしテキストの形態素解析—</p>
13:35–14:05	<p>[E-2] Katsumasa ITO, Heiko SEELIGER Non-canonical response particles in German? Toward a formal semantics of <i>Und ob!</i> and <i>Als ob!</i></p>	<p>[F-2] 松岡 葵 九州方言と北琉球語における「歩く」を表す動詞の補助動詞用法：複数行為性の観点から</p>
14:10–14:40	<p>[E-3] 綱谷 晃樹 トルコ語の過去時制接語 $=(y)DI$ と間接証拠性接語 $=(y)mIs$ の共起制限の分析</p>	<p>[F-3] 尹 熙洙 琉球諸語の語彙に残る強勢言語の痕跡とその示唆</p>
14:40–14:50	(休憩)	(休憩)
14:50–15:20	<p>[E-4] 坂本 遊野 ヴェーダ語祭式動詞の格交替に対する定量的アプローチ</p>	<p>[F-4] Anna BRANETS Language Attitudes and Communication in Receptive Multilingualism</p>
15:25–15:55	<p>[E-5] 高橋 翼 インドネシア語における与格交替の要因</p>	<p>[F-5] 古川 智康 シメーク語の音韻</p>

	<p>G 会場 E 棟 2 階 E23 司会 : [G-1~3] 平山 真奈美</p>
13:00–13:30	<p>[G-1] Michael Patrick MANSBRIDGE Animacy Agreement Violations in Japanese Existential Predicates オンライン発表</p>
13:35–14:05	<p>[G-2] Kazuhiro KAWACHI, Maho NAITO, Tatjana ILIC Unexpected patterns of genitives across languages in the context of Shibatani's nominalization theory オンライン発表</p>
14:10–14:40	<p>[G-3] 水野 庄吾 相対的場所表現における意味と形式のマッピング: 意味地図を用いて</p>
14:40–14:50	---
14:50–15:20	---
15:25–15:55	---

■ポスター発表（11月22日(土) 16:00-17:15）於・一般教育棟D棟

P1会場 D棟 3階 D35	[P-1] Yosuke SATO, Risa KAIBUKI Speaker Variability on Argument Ellipsis in Japanese with -Sika NPIs	[P-2] 春日 勇人 宝永元年空念上人筆録アイヌ語彙「狹言葉」が記録された地域の推定
	[P-3] 阪口 慧 「悪くない」=「良い」に対し、「天才じゃない」≠「馬鹿」 なのは何故か?—評価語否定文における二価志向性の適用範囲と制約条件—	[P-4] 柯 怡廷, 高橋 康徳 台湾閩南語における日本語借用語のピッチパターンの多様性

P2会場 D棟 3階 D34	[P-5] 安田 朱里 OEDデータに基づく英語 <i>un</i> -構文の通時的発達と意味制約の形成過程	[P-6] 張 倩倩, 大山 祐亮, 陳 楊鋒 中国語福安方言における受動標識の文法化
	[P-7] 榎村 輝 ペルシア語の複雑述語における語彙的緊密性の破れ	[P-8] 風間 伸次郎 他動性の低い状態述語文の格枠組みにおける階層性について
	[P-9] 石 文君 中国語の動詞コピー構文について	

P3会場 D棟 3階 D33	[P-10] 中村 真衣佳 Serial Verb Constructions の観点からみた台湾華語「給‘gei’」の統語的特性	[P-11] (発表辞退)
	[P-12] 富岡 侑央 換喻研究における概念ブレンディングの役割	[P-13] 内ヶ崎 哲 古典サンスクリット複合語の主節定動詞に対する時制・アスペクトの関係
	[P-14] 若松 史恵 自然談話における「なんか」の曖昧さに関する一考察	

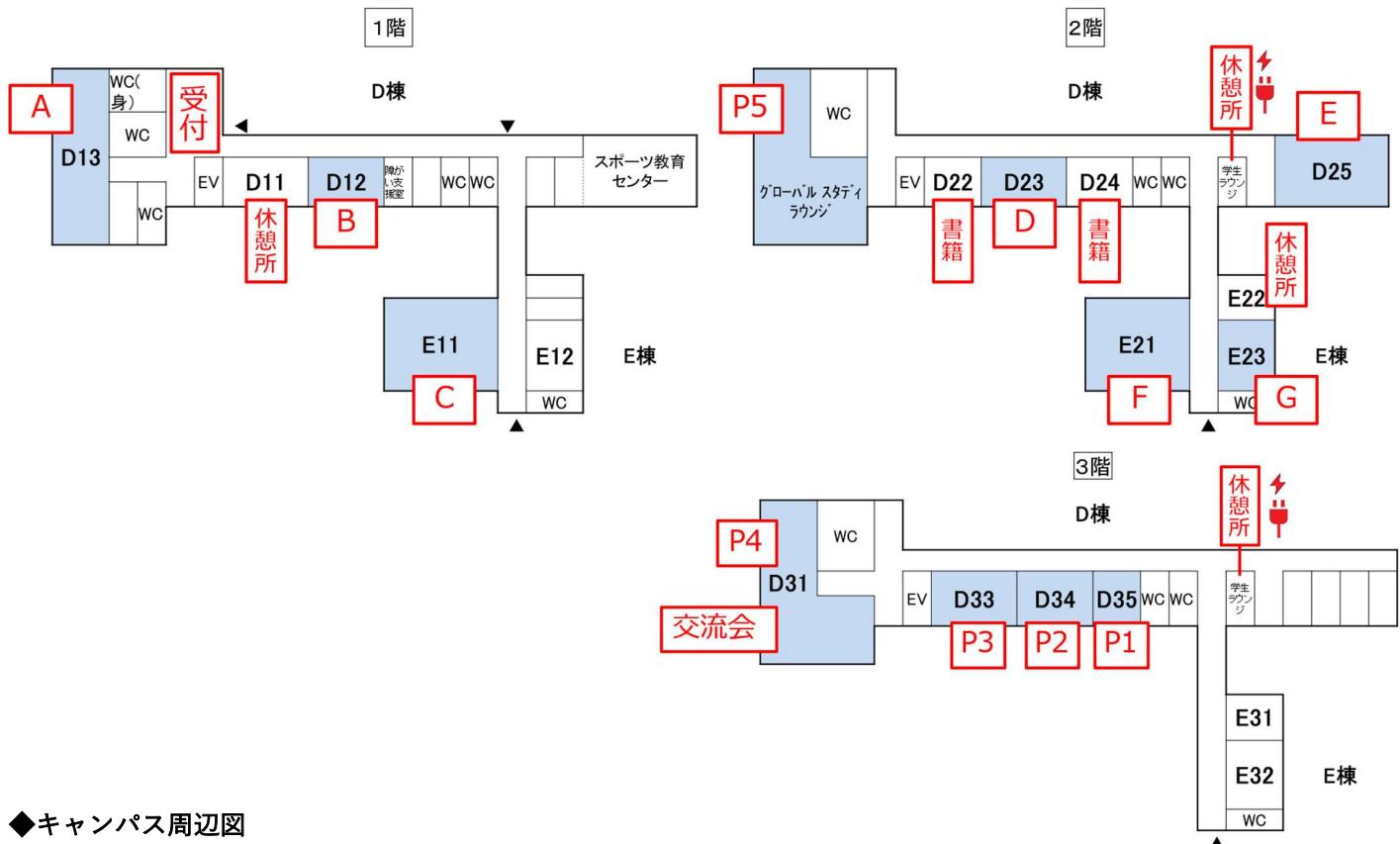
P4会場 D棟 3階 D31	[P-15] 菅谷 友亮 音声的強調による意味的プロミネンスへの影響—視覚刺激に対する視線停留を用いた実験	[P-16] 金子 真 話者の deontic status を表明するものとしての、命令的意味を表すショウ
	[P-17] 熊切 拓 ペルベル語ターウェィト方言（南部チュニジア）の動詞活用	[P-18] Naoki KATSUMI The Presupposition Filter “even if”
	[P-19] 小林 真緒 カレリア語トヴェリ方言における共格の機能	[P-20] 鈴木 彪真 Get-受動態の統語的ステータス:Smuggling 分析と事象構造分析の統合アプローチ
	[P-21] 丸山 莉歩 日本手話における片手脱落現象（Weak Drop）をめぐる新しい分析の提案	[P-22] 谷 茉利子 非標準的な形式<may/might + did>に関する一考察
	[P-23] 小林 颯 文語タミル語における相関関係節の選択の要因について	

P5 会場 D 棟 2 階 グロー バル スタデ イー ラウ ンジ	[P-24] 大西 貴也 初期新デンマーク語における代名詞目的語の語順	[P-25] 村山 友里枝 北海道方言「ラサル」の非意図用法と責任性との関わりについて
	[P-26] 尹 聖樂 モダリティ表現「ものだ」の使用条件	[P-27] スコットディクレメンテ マルコ 鹿児島県南九州市頬娃町方言における語末内破音の音韻解釈
	[P-28] 田中 伶音 コロケーションによるダジャレの定型化性・意外性の客観的抽出方法と類型化—『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いた表現効果の計量的測定—	[P-29] Thomas SCHOEKLER From CEC to CCC: on the emergence of new modal markers in Japanese
	[P-30] 山田 智大 線文字 A の言語の形態素分析	

■ワークショップ（11月23日(日) 10:00-12:00）於・一般教育棟D・E棟

A会場	[W-1] 語形成とプロソディーの関係	企画者・司会：沈 力 コメンテーター：窪薙 晴夫
D棟	[W-1-1] 日本語の語形成におけるプロソディーの役割	窪薙 晴夫
1階	[W-1-2] 伊良部島方言における2種類の複合形式	下地 理則
D13	[W-1-3] 中国語灌雲方言における語形成とプロソディーの相互構成	沈 力
B会場	[W-2] 接合要素から考える複合名詞と統語的名詞句	企画者・司会：野元 裕樹
D棟	[W-2-1] ドイツ語の「名詞+名詞」複合語における接合要素：第一要素の名詞語幹に注目して	池田 裕行
1階	[W-2-2] タガログ語における複合名詞	清水 智也
D12	[W-2-3] 中国語における複合名詞の接合要素	伊藤 さとみ
	[W-2-4] スペイン語におけるN1 de N2型複合名詞の統語論・意味論	喜多田 敏嵩 野元 裕樹
C会場	[W-3] The cognitive science of space, time, and modality	Organizer & Chair: Yukinori TAKUBO
E棟	[W-3-1] Frames of reference in spatial construals of time: Variations and universals	Rafael NÚÑEZ
1階	[W-3-2] Tagalog demonstratives in interaction: Space, time, and beyond	Naonori NAGAYA
E11	[W-3-3] A referential approach to conditional clauses	Setsuko ARITA
	[W-3-4] How transmission delays affect turn-taking in online conversation	Hiromichi HOSOMA
D会場	[W-4] 主観性/subjectivity の言語学	企画者：佐藤 らな 司会：西村 義樹 コメンテーター：長谷川 明香
D棟	[W-4-1] subjectivity とは何か：2つの解釈	西村 義樹 長谷川 明香
2階	[W-4-2] 〈私〉はどこにいるのか：川端文法と認知文法の接点を探る	佐藤 らな
D23	[W-4-3] 日本語受身文の視点と主観性	田中 太一
	[W-4-4] ドイツ語のいわゆる関心の与格と主観性	城山 月花
E会場	[W-5] 日本語から見た世界の言語のアスペクト表現—テイルに相当する概念の表出に関わる形式に着目して—	企画者・司会：江口 清子
D棟	[W-5-1] 現代口語ビルマ語における動作継続と結果残存の表現	大塚 行誠
2階	[W-5-2] インドネシア語における動作継続と結果残存の表現	原 真由子
D25	[W-5-3] スワヒリ語における動作継続と結果残存の表現	宮崎 久美子
	[W-5-4] ペルシア語における動作継続と結果残存の表現	ジェイ・ベハナム
	[W-5-5] デンマーク語における動作継続と結果残存の表現	大辺 理恵
F会場	[W-6] 周辺的事例と向き合う：その視座と方法	企画者・司会：岩男 考哲 コメンテーター：益岡 隆志
E棟	[W-6-1] 周辺的連体節をどう扱うか	岩男 考哲
2階	[W-6-2] インターネットスラングをどう扱うか	板垣 浩正
E21	[W-6-3] 周辺的な「ている」をどう扱うか	大神 雄一郎
	[W-6-4] 周辺的 there 構文をどう扱うか	三野 貴志

◆会場配置図（一般教育棟 D, E 棟）



◆キャンパス周辺図



◆ 会場までの交通アクセス

以下のページをご参照ください。

岡山大学津島キャンパス アクセスマップ

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/access_4.html

◆ 大会期間の昼食

大学内の以下の食堂が営業しています。

- ・岡山大学生協 マスカットカフェテリア 営業時間（土日祝）10:00~20:00

その他、周辺にはコンビニエンスストアや食事処が多数ございます。詳しくは下記 URL の地図をご覧ください。OR コードでも読み込みいただけます。

<https://www.google.com/maps/d/viewer?mid=1rDuXjNFC9lJHWOPcrVhvIQ86Gak6msc>



お知らせ

◆ 発表要旨集

発表要旨集は大会の 1 か月前までを目安に学会ホームページから電子版（PDF ファイル）がダウンロードできるようになります。紙媒体での頒布はありませんので、事前にダウンロードをお済ませください。
※従来の予稿集は第 168 回大会をもって廃止されました。

◆ 発表資料共有ページ

オンラインで事前登録した方には 11 月 20 日（木）頃に発表資料共有ページの URL をお知らせします。当日会場で申し込みをされた方は、大会参加証でご確認いただけます。

◆ 書籍展示

書籍展示は、一般教育棟 D 棟 2 階 D22 教室および D24 教室で行う予定です。

◆ 資料展示コーナー

会員相互の情報交換のための資料展示スペースを用意します。会員に紹介したい学会、研究会、講演会のパンフレット等を置くことができますのでご利用下さい。（配布物は当日受付にご持参下さい。）

◆ 出張依頼状

所属機関長宛の出張依頼状がご入用の方は、返送先を明記して切手を貼った返信用封筒を同封の上、11 月 2 日（日）（必着）までに学会事務支局までお申し込みください。

事務局からのお知らせ

本言語学会では、2019 年度より、言語学の研究・教育および学会運営にあたって依拠すべき倫理上の基本原則と理念を「日本言語学会倫理綱領」（以後「倫理綱領」）として定めました。制定に至った背景の 1 つに、2018 年 8 月に開催された「夏期講座 2018」で発生したハラスメント事件があります。学会として、このような事態を二度と起こしてはならないという強い決意のもと、倫理綱領制定のための部会で原案を作成し、常任委員会、そして評議員会で議論の上、制定した次第です。倫理綱領は研究大会を含む学会活動すべてに関わるもので、日本言語学会の会員であるかどうかに問わらず、倫理綱領を遵守していただくことが本大会参加の条件となることを認識いただいた上で、大会に参加いただきますよう、よろしくお願ひ致します。

倫理綱領の内容については、日本言語学会ウェブサイトで確認してください。

<http://www.ls-japan.org/modules/documents/rules/15.pdf>



次回研究大会について（2026 年春季大会：第 172 回大会）※詳細は学会ホームページをご確認ください。

場 所：桜美林大学

日 程：決まり次第ご案内します。

- ・発表応募締め切り 2026 年 3 月 20 日（金）（必着）
- ・採否通知 2026 年 4 月中旬

問い合わせ先

日本言語学会事務支局 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入

Tel. (075) 415-3661, Fax. (075) 415-3662, E-mail: lsj@nacos.com